



【共通】

◆当面する重点作業について

1. 新梢・徒長枝が伸びているので、適正に整理する。
2. 樹体が日焼けで傷まないように保護する（新梢を置く・ワラを巻くなど）
3. 適時にかん水を実施する。降雨が多い場合は、排水対策を実施する。
4. アメリカシロヒトリは巣網のうちに捕殺するか、焼却処理する。
5. 薬剤散布を適期に実施する。

◆令和9年12月配布予定あんず「山形3号・新潟大実」 予約注文とりまとめについて

JAでは、地域の特産品目として、あんずの振興を図り生産振興をしております。
苗木生産量が少ないため、苗木業者へ事前に苗木生産をお願いする事といたします。
苗木注文については、「果樹総合情報No.果樹生産振興」をご覧ください。

◆プルーン・すもも・おうとう・うめ コスカシバ対策薬剤散布について

1. 散布時期：9月上中旬

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：400～500ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
フェニックスフロアブル	4,000倍	25ml	前日	コスカシバ

3. 散布上の留意事項
 - 1) コスカシバの食入防止として実施する。
 - 2) 主枝・主幹部にしっかりと掛ける。
 - 3) プルーン・すももは、別記の1回目ボルドー散布に混用してもよい。
杏は、第8回薬剤散布に混用してもよい。

【プルーン・すもも】

◆スモモヒメシンクイの防除対策について《重要》

1. 薬剤防除：定期防除は、散布間隔を守りしっかりと散布ムラなく、量をしっかりと掛ける。
2. 耕種的防除：園内をこまめに巡回し、樹上の被害果・落果した被害果をすべて見つけ処分する。
3. 処分方法
 - 1) 被害果を園外に持ち出し、7日以上水漬けし果実中の幼虫を殺す。
 - 2) 土中に埋める場合は、1m以上深く埋める。浅いと羽化し、再び発生するので注意する。
 - 3) 厚い肥料袋等に被害果を入れ、羽化成虫が外に飛び出さないよう口を固く結ぶ。レジ袋等は不可。
 - 4) 放任園や自家用で、防除しないプルーン・すもも等発生源を伐採してもらう。
4. 被害果の特徴
 - 1) アメをだす。
 - 2) 果面に地図を描く。
 - 3) 果面が黄色や紫色に変色。
 - 4) 落果している。

◆灰星病対策について

被害果を見かけ次第（降雨の前に）除去し、園外へ持ち出すが土中に埋め、被害果を触った手で他の果実に触れないようにする。

◆秋季剪定について

この時期の剪定は（枝が貯蔵養分を蓄える前に剪除してしまうので、切った枝が反発しない）樹を落ち着かせる効果がある。また、樹幹内部まで良く日光を当てることで、翌年の花芽の充実を図ることができる。

- 1. 剪定時期：枝が貯蔵養分を蓄える前の9月上中旬。これより早い時期に行うと、枝の二次伸長を誘発させてしまう。
- 2. 剪定方法：主枝背面等から発生している、太い徒長枝を中心に剪除する。
日焼けが心配な場合は、基部から20cm程度残す。
大枝は凍害防止のため3月に剪除する。
秋季剪定は樹勢を落ち着かせるために行うので、樹勢の弱い樹は行わない。
また、秋季剪定ですべての剪定を行わない。

◆収穫前薬剤散布について

- 1. 散布時期：収穫開始2日前

実際散布月日	月	日
--------	---	---
- 2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	前日	灰星病
- 3. 散布上の留意事項
 - 1) 「収穫前日」とは、収穫24時間前までに散布が終了している事を意味する。
 - 2) オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル3,000倍（水1000ℓ当り33ml・収穫前日）又はアンビルフロアブル1,000倍（水1000ℓ当り100ml・収穫前日）を使用してもよい。

◆黒斑病対策特別薬剤散布について（すもも中心）

- 1. 散布時期：14日間隔で実施
 - 1) 1回目⇒ 9月上中旬

実際散布月日	月	日
--------	---	---
 - 2) 2回目⇒ 9月下旬

実際散布月日	月	日
--------	---	---
 - 3) 3回目⇒10月上中旬

実際散布月日	月	日
--------	---	---
- 2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
I C ボルドー 4 1 2	33倍	3kg	—	黒斑病
固着性展着剤K. Kステッカー	3,000倍	33ml	—	—
- 3. 散布上の留意事項
 - 1) 収穫中・収穫直前品種に掛からないよう、実施し、特に混植園や隣接園は注意する。
散布困難な場合は、収穫終了後、速やかに実施する。
 - 2) I C ボルドー 6 6 D並びに4-12・6-6式ボルドー液は、登録が無いため使用できない。
 - 3) K. Kステッカーに代えて、アビオンE1,500倍（水1000ℓ当り66ml）を使用してもよい。なお、この場合ボルドー液を調合した後に混用する。

【あんず】

◆第8・9回薬剤散布・特別薬剤散布（かいよう病対策）について

1. 散布時期：14日間隔で実施

1) 第8回⇒ 9月上中旬

実際散布月日	月	日
--------	---	---

2) 第9回⇒ 9月下旬

実際散布月日	月	日
--------	---	---

3) 特別 ⇒10月上旬

実際散布月日	月	日
--------	---	---

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
固着性展着剤アビオンE	1,500倍	66ml	—	—
ICボルドー66D	50倍	2kg	—	かいよう病

3. 散布上の留意事項

1) 発生が多い場合は、10月上旬の特別散布も実施する。

2) アビオンEに代えて、固着性展着剤K. Kステッカー3,000倍（水1000ℓ当り33ml）を使用してもよい。ただし、最後に調合する。

3) ICボルドー66Dに代えて、ICボルドー412の50倍（水1000ℓ当り2kg）を使用してもよい。

◆秋季剪定講習会・かいよう病対策について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月7日	月	午前10:30	松代 東条 小野益一様園	伊藤
9月9日	水	午後 4:00	川中島 半田 芳郎様園	松橋

◆杏加工用コンテナ回収について

杏加工用コンテナは加工業者から借用しているため、速やかに松代総合センターまで返却ください。

【なし】

◆豊水荷受について

1. 荷受日時：8月31日（月）・9月2日（水）・4日（金）午前9時まで
2. 荷受場所：各流通センター・共選所
3. 荷受方法
 - 1) コンテナは、篠ノ井のりんご用コンテナを使用する。
更北地区と川中島地区は、真島フルーツセンターのコンテナを使用する。
コンテナ（ノバエースも併せて）の貸出準備を致します。必要数量を事前に各流通センター、共選所まで。
 - 2) コンテナの下と中間にクッション材（ノバエース）を敷き、箱の中でぐらつかないように工夫して詰める。
※ノバは切ったり、必要以上に使用しないで下さい。また、他へ流用しないで下さい。
 - 3) 果柄(ほぞ)は短く切り、下向きに詰める。玉の大きさは大小あっても良い。なお、極小すぎないこと。
 - 4) コンテナ毎に、支所支店・組合員コード・氏名を記入した、個票を入れる。
4. 収穫・出荷基準
 - 1) 収穫始めは、満開145日頃から。糖度12度以上を目安とする。
 - 2) 収穫目安となる果皮色はカラーチャートで2.5～3とする。
 - 3) 2回に分けて樹の上・外側・短果枝から収穫する。

◆南水収穫出荷講習会開催について

下記により、開催しますので出荷予定者は必ず参集下さい。

1. 2・3kgオープン箱（ももとと同じ箱）詰め出荷について、講習会にてお知らせ致します。
2. 熟度調査を行います。収穫適期と思われるものを1個ずつ持参ください。
3. 当日、荷受計画表を配布します。
4. 収穫が早まる場合は、各共選所・流通センターまで連絡をして下さい。
5. 加工の荷受けは例年通り実施致します。講習会で詳細をお知らせ致します。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月7日	月	午前10：30	更北 真島フルーツセンター 2階会議室 駐車場所：荷受場所や冷蔵庫前は不可	根津
		午後2：00	篠ノ井 東部流通センター2階会議室	外谷